

ALPS 処理水海洋放出後の福島県産水産物の単価

福島県水産海洋研究センター 放射能研究部

1 部門名

水産業－その他－市場・流通

2 担当者名

遠藤雅宗・鷹崎和義・池川正人

3 要旨

2023年8月24日～11月20日の期間に、ALPS 処理水の海洋放出が3回実施された。この期間の本県主要魚種（11種）の単価を前年同期と比較したところ、8種については大きな差はなく、単価が10%以上低下した魚種は3種（オキナマコ、カツオ、シラス）みられた。また、ナマコ類の単価がALPS 処理水海洋放出後に低下した事例は、他道県でも確認された。

(1) 調査対象魚種は、2022年の県内産地魚市場における水揚金額が1億円を超えた魚種とした。

(2) 単価が前年同期より10%以上低下した魚種は、オキナマコ(前年同期比46%)、カツオ(同59%)、シラス(同81%)であった(表1)。

(3) 漁業情報サービスセンター(全国の水揚情報を収集)のHP「おさかなひろば」

*のデータを整理したところ、ナマコ類の単価がALPS 処理水海洋放出後に前年同期より低下した事例は、紋別(北海道)、石巻(宮城県)でも確認された(図1)。*URL <https://www.osakana-hiroba.jafic.jp>

表1 県内産地魚市場における水産物の単価(8/25(海洋放出後の初水揚日)～11/30)

No.	対象種 *()内は2022年 水揚金額(百万円)	2023年		2022年		前年同期比	
		単価 (円/kg)	水揚量 (ト)	単価 (円/kg)	水揚量 (ト)	単価 (%)	水揚量 (%)
		(a)	(b)	(c)	(d)	(a/c×100)	(b/d×100)
1	ヒラメ (689)	1,941	86.9	1,618	97.4	120	89
2	シラス (495)	615	312.7	763	416.1	81	75
3	ヤナギダコ (210)	511	87.4	551	224.8	93	39
4	サバ類 (198)	110	812.1	63	191.2	176	425
5	スズキ (191)	1,147	13.9	970	35.9	118	39
6	カツオ (159)	341	29.2	582	22.7	59	129
7	オキナマコ (137)	769	2.4	1,689	3.6	46	65
8	タチウオ (129)	1,862	11.5	1,736	15.8	107	73
9	マアナゴ (127)	1,604	8.3	1,719	5.9	93	142
10	トラフグ (124)	4,092	15.7	2,886	29.0	142	54
11	キアソウ (100)	547	52.3	539	75.8	102	69

*マイワシ(180百万円)は、当該期間の水揚が無いため除外

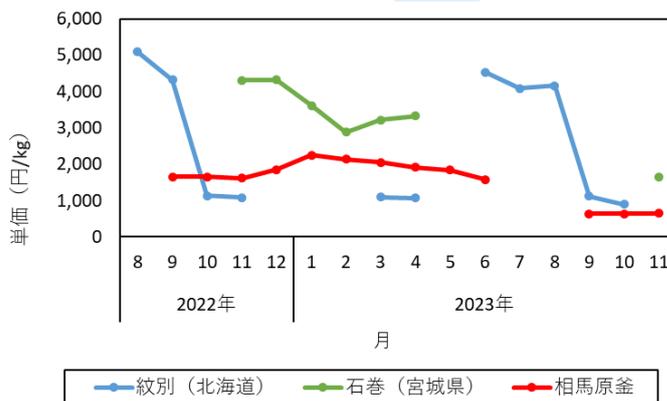


図1 2023年9～11月のナマコ類の単価(前年比)の推移

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3～7年度

(2) 研究課題名 沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明

5 主な参考文献・資料

(1) 特になし